



2015年8月 秋田県仙北市角館 花葉館にて  
八戸工業大学、日本大学の木匠塾と共同製作

秋田県立大学木匠塾について

木匠塾とは1990年代初頭に、建築系大学の授業カリキュラムにおいて木造建築教育がほとんどなされていなかったことから、木材の産地である林業の現場で学ぶことを目的として、毎夏、開催されることとなった木の建築塾である。岐阜県飛騨高山を発祥とし、現在では全国各地に活動が広がっている。

秋田県立大学木匠塾は、秋田県立大学本荘キャンパスの建築サークルとして活動している。多くの学生たちは、学内での建築模型製作では難しい、木匠塾での1/1、実寸大のスケール感の得られる木の「ものづくり」に魅力を感じ集まっている。

地方自治体や地域住民の方々、他の活動団体と連携しながら、地域の特性を踏まえ、地元の樹木を活用して、地域に役立つものをつくることを目指している。

活動内容のメインとなるのは、毎年8月下旬に行われる角館木匠塾サマースクールである。八戸工業大学、日本大学の木匠塾と協力して、角館の地域住民の方々や相談しながら、実際に活用していただけるような作品を製作する。

その他にも、鳥海高原菜の花まつりに木工教室を出展したり、地域の幼稚園の卒園製作の手伝いをしたりと木工を通じて地域住民の方々やふれあう活動を行っている。



1. 2015年角館木匠塾サマースクール計画

2015年の角館木匠塾サマースクールの計画を始めるにあたり、毎年活動場所を提供して下さっている花葉館と打ち合わせを行った。

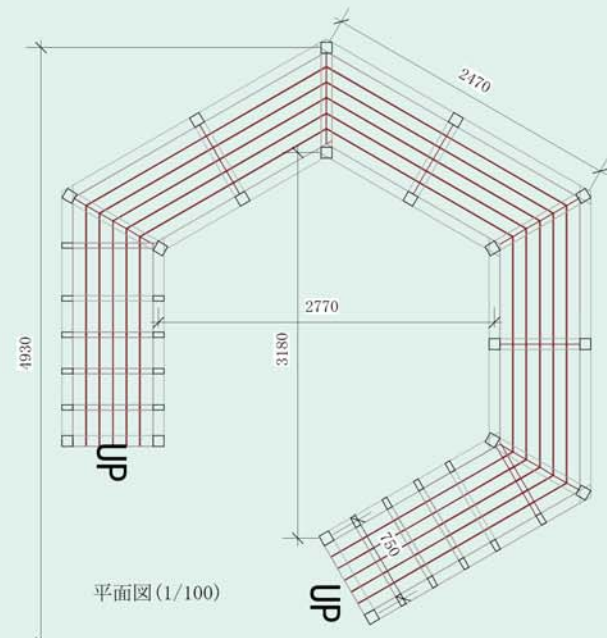
花葉館は角館の玄関口ともいえる施設であり、さまざまなジャンルのスポーツ施設を備えた温泉旅館である。その為、地域住民のみならず他県からの観光客も多く利用する。

今回は花葉館から子どもたちが自然に集まるような作品を作ってほしい、という要望があった。

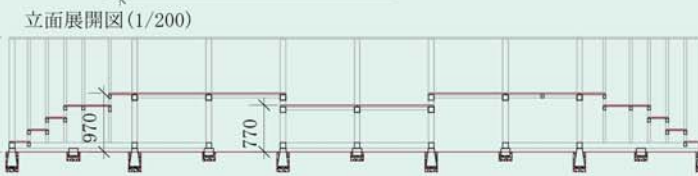
先述したとおり、花葉館には観光客が多く訪れるが、その中には長期休暇の際に家族と訪れる多くの子どもたちもいる。そこで子どもが大人と一緒に活用できる場所がほしいということだった。

それを踏まえ、今回は六角形型の休憩場所を兼ねた階段遊具を作製することとした。周りに直方体型の建造物が多い中で、六角形のデザインが目をはひくのではないかと考えた。また、八戸工業大学、日本大学の協力を得て、六角形の意匠にあわせたテーブルとベンチを設置することとした。

今回の敷地はグランドゴルフ場の中に位置しており、プレイの合間に休憩したり昼食をとったりするためのスペースが求められていた。テーブルとベンチの設置により、階段遊具の用途が広がった。



平面図(1/100)



立面展開図(1/200)



モックアップ



敷地

2. 地元職人による技術指導



サマースクールの作業カリキュラムとして最初に行われたのは地元の職人の方々による技術指導である。施工について、学生の知識や技術では不十分な点が多々ある。地元の職人の方々をお招きし、工具の正しい使い方や今後の施工に関するアドバイスをいただいた。大学の講義では得ることのできない貴重な体験をすることができた。

3. 過去作品の補修作業



長年花葉館の敷地をお借りして作業している為、先輩方の作品が数多く残されている。腐朽を防ぐ為、毎年防腐塗料を塗装している。定期的なメンテナンスを続けることは、木造作品を長い間利用し続ける上で重要なことである。

4. 施工作业

施工作业は基礎班、材加工班、補修班に分かれて行った。それぞれの作業が終了後、全員で組立作業を行った。作業中にグランドゴルフ大会が行われていたこともあり、地域住民の方々と交流することができた。地域の方々もこの木匠塾の活動に大きな関心をもっていることがわかった。



基礎施工



材加工



組み立て

5. サマースクールのまとめと今後の活動に向けて



この六角形の木造遊具には、子どもたちの遊び場としての機能と、グランドゴルフ場利用者の休憩場所としての機能を持たせている。

強度が低下しないよう配慮しつつ、土台を部分的に省略することで、子どもたちが階段の下にもぐったり、トンネルのようにくぐり抜けたりできるように工夫した。秘密基地をイメージし、このような工夫を施した。この木造遊具が今後グランドゴルフ場のシンボルになっていければと思う。

また、今回のサマースクールでは秋田公立美術大学から講師をお招きして、公共施設の木造化について講義していただいた。

ただ作業するだけでなく、フィールドワークや木造に関する講義を通じて、今後の木造建築のあり方を考えることができた。

現在、この花葉館には木造のバス停、ベンチ、東屋など数多くの木匠塾の作品が設置されている。ここを訪れた人々は自然と木造作品にふれている。地元秋田の木材を、秋田の学生が加工し、地域の人々がそれを利用する。このサイクルをより拡大し、学生の立場から、木材の持続的な利用を進めていきたいと思う。

